

映旬

1

アニメーション専攻 第三期生修了制作展

◎アニメーション専攻

三月九日から十一日まで、本学横浜校地馬車道校舎において、「アニメーション専攻第三期生修了制作展」を開催した。

今回の修了制作展では「JANIS」というテーマを掲げ、作品上映だけでなく、作品の制作意図を垣間見ることのできる原画や人形、絵コンテなどの展示や、作者別のメイキング映像の上映、片桐仁（コメディアン・俳優・彫刻家）、佐々木敦（批評家）、山村浩二（本学教授）による感想談義、ゼミごとの教授と学生との作品トークを開催した。

2

公開講座―馬車道エッジズ 「コンテンツポラリ― アニメーション入門」第九回

◎アニメーション専攻

三月十八日、本学横浜校地馬車道校舎において、公開講座―馬車道エッジズ「コンテンツポラリアニメーション入門 第九回」を開催した。「感性と知性、ギル・アルカベッツ」と題して、ドイツよりインディペンデントのアニメーション監督、ギル・アルカベッツ氏を招聘し、『スワンプ』『ルビコン』など作品上映と併せ、自身の創作の軌跡をたどりながら、短編アニメーション創作の発想から、実現までを、作品上映を交え、本学教授・山村浩二が企画・進行して開催した。

3

openTHEATER/ext (オープシアター／エクステ) 「超高精細デジタル映像が 開く未来」

◎映画専攻

三月十六日、本学横浜校地馬車道校舎一階ホールにおいて「文化財」と「オーロラ」の二つのテーマで超高精細映像の上映をおこなった。

「文化財」では、馬車道校舎のすぐ近くにある神奈川県立歴史博物館のご協力をいただき、博物館所蔵の「従江戸長崎迄海陸之図」をギガピクセル（数億画素）サイズでデジタルデータ化したものを表示しながら、同博物館専門学芸員の古宮雅明氏の解説があった。今回の作業によって新たに明らかになった事実もあった。

「オーロラ」では平塚市博物館館長の鴈宏道氏の解説とともに、映像研究科技術職員の荒木泰晴がアラスカにおいてフィルムおよびデジタルで撮影した連続写真をもとに生成した動画を上映した。定員を上回る盛況であった。

4

映画専攻第六期生修了作品展

◎映画専攻

本年三月に修了した映像研究科映画専攻第六期生の修了制作作品の上映が、本学横浜校地馬車道校舎では三月二十四日と二十五日、渋谷ユーススペースでは六月二日から十五日まであった。制作作品は『ソクラテック・ラブ』『虚しいだけ』『ユートピアサウンズ』『インビジュアルモンスター』の四作品である。特に有料上映となる渋谷ではレイトショー枠ながら前売り券がなくなるなど注目の高さをうかがわせた。



2

公開講座—馬車道エッジズ
「コンテンポラリーアニメーション入門」
第9回
アニメーション専攻



「空の卵」大川原亮

アニメーション専攻第3期生修了制作展
アニメーション専攻

1



オープンシアター／エクステ
「超高精細デジタル映像が開く未来」
映画専攻

3

4

映画専攻第6期生修了作品展
映画専攻

上から、
『インビジブルモンスター』監督：松尾健太
『ソクラティック・ラブ』監督：早坂亮輔
『ユートピアサウンズ』監督：三間旭浩
『虚しいだけ』監督：今橋 貴

TOPICS OF
FINE ARTS

2012.02-07

美旬



「スカイネスト」2011年度設置作品(台東区)



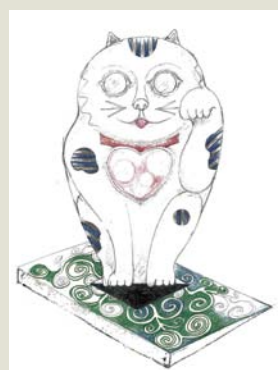
「イメージマケット3」2012年度設置作品



「Reflectscape」2011年度設置作品(墨田区)



「イメージドローイング2」
2012年度設置作品



「イメージドローイング1」
2012年度設置作品

1

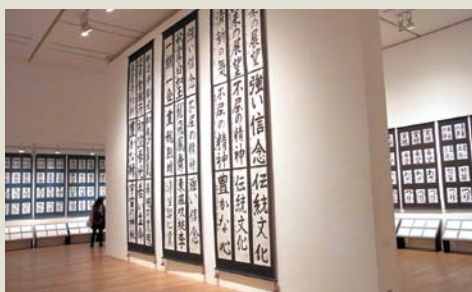
GTS(藝大・台東・墨田) 観光 アートプロジェクト2012

昨年度に引き続き、本学と台東区、墨田区の三者共催による地域連携事業「GTS 観光アートプロジェクト2012」が実施される。

このプロジェクトは、両区の間を流れる隅田川の存在を絶好の地理的特性と捉え、東京スカイツリーと浅草をアートで結び、隅田川エリア全体として観光を楽しみながら散策できる回遊ルートの創設を目指している。

平成二十二年度から二十四年度までの三年間にわたり、今春開業した東京スカイツリーのビューポイントに環境アート作品やアートベンチを設置する「アート環境プロジェクト」と、地域での現代美術展、インスタレーション、パフォーマンス、映像展や音楽コンサートなどの複合的な展示をおこなう「隅田川 Art Bridge」の二本柱を軸に実施している。

平成二十四年度プロジェクトの実施に先駆け、七月七日から十八日には、今年度新たに設置される環境アート作品四点とアートベンチの制作を区民に公開する「マケット・プランニング展(前期)」、また、七月三十一日には、小中学生を対象にした区民参加ワークショップ「東京スカイツリーを描く、東京スカイツリースポットを探せ!」が実施された。



作品展会場

ぼくの色、わたしの形 —第六十四回台東区小・中学校連合作品展—

2

2

ぼくの色、わたしの形

—第六十四回台東区小・中学校連合作品展—

美術学部では、昨年度に引き続いて、台東区教育委員会からの受託研究「図画工作・美術等の授業から展開する子どもの作品展示に関する実践的研究」（研究代表者…池田政治・美術学部長）に取り組んだ。本研究は、二〇〇八（平成二十年）に本学と台東区が締結した連携に関する協定の、教育及び人材育成に関する連携事項に基づいて委託を受けたもので、台東区の小・中学生による図画工作、美術、家庭、技術、書写の作品を展示する「台東区小・中学校連合作品展」を大学美術館において開催し、作品展示について実践的に検討することを目的としたもの。

昨年度の研究をもとに、今年度も、展示計画や作品展示方法について、美術教育研究室と大学美術館が中心になって、台東区立小中学校の教諭とより緊密に協議を重ねた。その成果は、大学美術館で開催された「ぼくの色、わたしの形」展（会期一月十四日～十八日）として結実した。

展示および撤去作業は、台東区立小中学校の教諭のほか、美術教育研究室の教員、学生や大学美術館の教員が協力しておこなった。展覧会は美術学部の専門性や大学美術館の特徴を活かした、質の高いものとなった。五日間の会期中の入館者数は、合計六八四九人。展覧会は好評のうちに幕を閉じた。



復元した壁画と宮廻教授



記者会見(左より荒井准教授、宮廻教授、宮田学長、北郷副学長)

保存修復日本画研究室 特許技術で高句麗古墳壁画を原寸大復元

3

保存修復日本画研究室 特許技術で高句麗古墳壁画を 原寸大復元

3

二月二十七日、文化財保存学専攻保存修復日本画研究室では、独自に開発した特許技術(※)を用い、世界遺産にも登録されている高句麗古墳群のなかから、江西大墓(六〜七世紀)の巨大な壁画に描かれた「四神図」の複製をおこない、石室全体を同素材かつ同質感、原寸大で復元することに初めて成功し、報道機関に公開した。

今回、復元した高句麗古墳群江西大墓の壁画「四神図」は、高松塚古墳壁画の源流とされ、われわれ日本人の文化のルーツを知るうえで重要なものだが、壁画の劣化が著しく、描かれている「四面図」の図像が消えつつある。対策として模写の制作が検討されたが、石室の壁画が持ち出せないことやその巨大さのため、従来の模写では膨大な時間と労力が必要になる。

そこで同研究室では、開発した特許技術を用いて、オリジナルとほぼ同質である花崗岩の質感を備えた壁画を複製し、六か月という短い制作期間に縦約三メートル×横約三・二メートル×高さ約二・三メートルの巨大な石室を復元することに成功した。壁画の図像復元においては、三十年前に撮影されたボジフィルムを使用し、高度なデジタル画像処理技術と手作業による彩色の併用によって、原寸大の鮮明な「四神図」を蘇らせ、現代では窺い知ることができなかった古代の文化を共有することが可能になった。

※本学特許取得第一号「質感を表現した素材の製造方法及び絵画の製作方法、質感を表現した素材及び絵画、建築用材料」(特許番号:第4559524号)。



第2回Dコンサート
第六ホールにて

1

TOPICS OF
MUSIC

2012.02-07

音旬

第2回Dコンサート

1

七月一日、第二回Dコンサートが第六ホールにおいて開催された。Dコンサートは、本学大学院で博士号を取得したアーティストが、実演を交えながら博士研究の成果を発表し、それに続いて演奏をお聴かせするという藝大ならではのユニークなコンサートである。今回は「演奏家と共に探る音楽の新しい聴き方」というテーマのもと、四人がそれぞれの研究と演奏を披露した。お客様からは「高度な研究に裏打ちされた表現に引き込まれた」、「わかりやすく興味をかきたててくれるトークで聴き方が変わった」といった感想が多く寄せられた。最後には、オリジナル・コラボレーション「声楽、バイオリン、三味線、サクソフォン、ピアノ」による《浜辺の歌》も登場。「異色中の異色のようなコラボは最高に感激でした」といった声も聞かれ、前回に引き続き大好評のうちに幕を閉じた。なお、第三回Dコンサートは、十一月十六日、カワイ表参道「パウゼ」で開催予定。



4

日中青少年交流演奏会(藝高)

上：奏楽堂での演奏会 下：生徒交流会



特別講座(古楽)「バロック時代の装飾について」

エミリオ・モレーノ特別招聘教授

2



福島県伊達市の中学生との交流活動

上、左下：松陽中学校体育館 右下：保原小学校体育館

3

2

特別講座(古楽) 「バロック時代の装飾について」

六月二十六日、特別招聘教授のエミリオ・モレーノ氏(スペインのカタルーニャ音楽院古楽科主任教授)による、バロック時代の装飾法をテーマとした特別講座が開催された。この講座では同時代の文献の紹介や解説とともに、実際の装飾例を音に出し、史料と実技の両面から装飾法についての理解を深めた。

モレーノ氏の豊富な知識にふれ、参加した学

3

福島県伊達市の中学生との 交流活動

管打楽器専攻では、この四月から福島県伊達市で市内中学生との交流活動をおこなっている。これは、福島県伊達市の東日本大震災の復興事業「吹奏楽きらめき事業」の一環であり、市内の中学校の吹奏楽部員への指導を通して、音楽の素晴らしさを伝えようというもの。今後、教員、学生、卒業生を定期的に派遣し、吹奏楽やアンサンブルのミニコンサートをおこない、生演奏を楽しんでいただく予定。来年二月三日には市内梁川中学校アリーナ(体育館)において、中学生たちとの合同吹奏楽演奏会が予定されている。

4

日中青少年交流演奏会(藝高)

三月二十七日、アジア総合芸術センタープロジェクト事業の一つとして、北京の中央音楽学院附属中等音楽学校生徒十五名と本学音楽学部附属音楽高等学校生徒九十名との交流演奏会がおこなわれた。本事業は、二〇一〇年三月に中国(北京・上海)で実施された交流演奏会の答礼として企画されたもので、両国の若人の瑞々しい演奏(民族楽器・邦楽を含む)をフィナーレの合同演奏が華やかに締めくくり、五〇〇名近い聴衆に大きな感銘を与えた。